令和３年４月５日

（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立横浜緑園高等学校長

令和２年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 19 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の資質・能力を向上させるため、ICT を活用した組織的授業改善に取り組む。 ②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。	①教員の ICT スキルを高め、ICT を活用した授業改善を推進する。 ②生徒の実態を踏まえ、その自己実現につながる新教育課程を編成する。	①校内研修会を実施するとともに、校外の研修会にも積極的に参加して、実践力を身につける。 ②単位制普通科としての魅力を生かしながら検討を重ね、新学習指導要領の理念に応じた教育課程を編成する。	①研修会や研究授業を継続的に実施し、校外の研修にも積極的に参加したか。 ②生徒の実態を踏まえ、単位制普通科高校として効果的な授業が展開できる新教育課程を編成できたか。	①校外研修会が減少したが、ICT スキルを高める校内研修会を８回実施し、授業互見月間を設定して授業改善につなげた。 ②単位制普通科高校として、生徒の自己実現につながる教育課程を編成することができた。	①ICT の活用をすすめ授業改善につなげたが、今後も継続的な取組を推進する。 ②新教育課程については今後も継続的な検討を続け、より本校の特色を生かした改善を加える。	①ICT の活用を今後も継続して学習指導の効果を高めるとともに、関連設備の整備に努めてもらいたい。 ②新学習指導要領のポイントは、探究活動にある。学校の特色を生かすとともに、探究活動への取組に期待する。	①ICT の活用や環境整備により授業改善につなげることができたが、今後もさらなる活用及び環境整備を図る必要がある。 ②新学習指導要領の理念に沿うとともに、本校の特色を生かした教育課程の編成に向け、今後も検討を重ねる。	①OJT や研修会を継続して実施し、教員の ICT 活用能力を高めるとともに、ICT 環境の整備をすすめる。 ②本校の特色を生かした教育課程の検討を継続し、単位制普通科高校としての魅力を生かしたカリキュラム･マネジメントをすすめ、学習指導を充実させる。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。 ②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。 ③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。	①儀式的行事をはじめさまざまな場面で規範意識を高める指導を行い、その意義について生徒の意識を高める。 ②日常的に生徒情報を共有する体制を構築し、外部機関とも連携した教育相談体制を構築する。 ③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促す指導を工夫し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④部活動の加入率を高め、各部活動を活性化する支援を行い、豊かな人間性や社会性の育成につなげる。	①頭髪･服装指導や遅刻指導等の機会を生かし、生徒の規範意識を高める指導を行う。 ②生徒情報の共有を日常的に行い、外部機関と連携したケース会議等により必要な支援を行う。 ③体育祭や文化祭等の行事において、生徒が主体となった取組を行う中で、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。 ④年３回部活動への加入呼びかけを行い、各部活動の活性化を図る支援を行う。	①頭髪･服装指導や遅刻指導等により、生徒の規範意識が向上したか。 ②生徒情報の共有や外部機関との連携により、実効性のある教育相談を実施できたか。 ③各行事後のアンケートにおいて、７割以上の生徒から達成度や満足度を得られたか。 ④部活動の加入率を高め、その活性化につなげることができたか。	①頭髪･服装指導を継続的に行い、生徒の規範意識の向上につなげた。また、遅刻指導も目的を十分に達成することができた。 ②拡大ケース会議や年次会での情報共有等により支援体制を構築し、必要に応じて外部機関と連携した支援を行った。 ③極鴎祭後の生徒アンケートでは、７割以上の生徒から肯定的評価を得た。 ④学校再開の遅れや感染症対策による部活動の制限もあり、加入率を高めることができなかったが、他校との合同チームの結成により活性化を図った。	①保護者との連携による効果的な支援のため、まちcomi メールやホームページによる情報発信や面談等により、協力体制を構築する。 ②拡大ケース会議（情報共有会議）を効果的に開催し、必要な支援につなげる。 ③感染症対策の中で行事の内容･開催時期等について工夫し、より生徒の満足度が得られるものにする。 ④感染症対策の中での部活動について検討をすすめるとともに、加入率を高める工夫をする。	①生徒の規範意識を高める取組を継続するとともに、保護者及び外部資源とも連携した支援体制を構築してほしい。 ②生徒個々の課題を随時把握するとともに、情報を共有して適切な教育相談体制を構築してほしい。 ③感染症対策を工夫し、学校行事や生徒会活動を実施する中で、生徒の自己肯定感の高揚と他者尊重の精神を培ってほしい。 ④他校との合同チーム結成など、現状における部活動の活性化に向けた取組は評価できる。部活動加入率を高める工夫が望まれる	①生徒の規範意識を高めるための生徒指導に加え、保護者との協力体制を構築する必要がある。 ②生徒情報を迅速に共有し、外部資源との連携も含めた必要な教育相談体制を構築する。 ③生徒の自己肯定感と他者を尊重する態度を養うため、感染症対策を工夫する中で各行事等を実施する必要がある。 ④年度当初の臨時休業等により加入率が低調となった部活動を活性化させるため、感染症対策をとりつつ部活動の活性化を図る必要がある。	①保護者との協力体制構築に向け、まちcomi メールやホームページによる情報発信を継続するとともに、面談等により密な連携を図る。 ②定期的に生徒情報を共有する体制を構築し、教育相談体制のさらなる整備をすすめる。 ③感染症対策を工夫して学校行事を実施する中で、生徒の自己肯定感と他者を尊重する態度を養う。 ④生徒会役員との協働を活性化し、生徒の自発的な活動をさらに支援して部活動の活性化に結び付ける。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができる進路指導を展開する。	①進路学習を充実させ、生徒の希望進路実現に資する指導を行う。	①最新の進路情報を職員･生徒に周知するとともに、「総合的な学習（探究）の時間」や LHR 等で生徒の進路活動を支援する取組を行う。	①上級学校のオープンキャンパス等への参加率が１･２年次在籍者数の５割、３年次在籍者数の７割を超える等、生徒自ら積極的に進路活動を行ったか。	①計画的なキャリア教育をすすめることできた。感染症対策として web によるオープンキャンパス参加を呼びかけるなど、生徒の積極的な進路活動を支援した。	①感染症対策で活動が制限される中でも積極的な進路活動を指導し、進路希望の実現を支援するとともに、来年度より外部と連携したキャリア教育を展開する。	①キャリア教育において、今後リカレント教育の取組等も検討するとともに、就職指導も充実させてほしい。	①社会情勢の変化に対応し、生徒の多様な進路希望を実現するために、より効果的なキャリア教育を進める必要がある。	①ICT を活用するなど社会情勢の変化に対応したキャリア教育を再構築し、生徒の進路希望実現に結び付ける。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容 具体的な方策	取組の内容 評価の観点	校内評価 達成状況	校内評価 課題・改善方策等	学校関係者評価 （３月 19 日実施）	総合評価（３月 31 日実施） 成果と課題	総合評価（３月 31 日実施） 改善方策等
			②生徒が学力向上を目指す働きかけを行い、希望進路の実現につなげる。	②校内で実施する外部模試の受験指導や補習授業等を通じて、進路目標に向かって学力向上に努める姿勢を涵養する。	②外部模試の受験指導を効果的に行い、希望制の３年次模試において、20 人以上の生徒が受験しその結果を進路指導に役立てることができたか。	②希望制の外部模試を３回実施し、計 35 名が受験した。各回の結果を生徒にフィードバックし、学力向上につながる進路指導を行った。	②業者を活用した新たなキャリア教育を導入し、進路希望の実現に向けて学力向上等に取り組む体制を整備し、単位制普通科としての特徴も生かした指導を行う。	②進路業者や外部模試等を活用したキャリア教育をすすめ、生徒の進路希望の実現に結び付けてほしい。	②業者を活用したキャリア教育により、入学から卒業までの計画的なキャリア教育を整備し、進学率の向上を目指す必要がある。	②進路業者のキャリア教育支援システムを活用し、卒業後の進路希望の実現を目指す体制を構築する。
4	地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①地域と関わる自己啓発活動を支援し、生徒の自己肯定感を高める取組を推進する。 ②さまざまな場面を通じて学校の魅力と特色を積極的に発信し、地域に信頼される学校づくりを行う。	①学校説明会の生徒スタッフや校外ボランティア等の活動を支援するとともに、地域連携を図る場面を数多く設定し、生徒の地域社会への参画意識を醸成する。 ②学校説明会やホームページを積極的に活用し、本校の教育活動を積極的に発信できるよう校内環境を整備する。	①アンケートや報告書等において、地域との連携･協働により７割以上の生徒が自己肯定感や達成感を得ることができたか。 ②学校説明会における来場者アンケートにおいて７割以上の肯定的評価が得られたか。また、ホームページ等を活用し、効果的な情報発信ができたか。	①学校説明会では、生徒スタッフが司会進行や手話通訳及び校舎案内などで活躍した。一方、感染症対策のため、地域交流の場面を設定できなかった。 ②ホームページのデザイン変更や掲載記事の更新をこまめに行い、魅力あるホームページの作成に努めた。	①生徒の活力をより生かせる学校説明会を継続して模索する。また、校外ボランティアについても、新たな交流･連携方法を模索し、地域貢献及び生徒の自己肯定感の高揚に結びつける。 ②学校説明会では、例年より多い約1000人の参加となった。今後も、きめ細かい情報発信を行い、広報活動を充実させる。	①感染症対策に配慮した結果、地域交流が縮小されたことは残念であったが、今後は工夫をし地域と連携した教育活動を模索し実現してほしい。 ②感染症対策により学校の広報活動が制限されたことは残念であったが、来年度は工夫をし、積極的な広報活動を期待する。	①感染症対策に配慮する中での地域交流を実施し、地域の教育力を生かすとともに、交流等を通して生徒の自己肯定感の高揚を図る必要がある。 ②感染症対策に配慮する中での広報活動を工夫し、本校の教育活動を積極的に発信する方法を模索する必要がある。	①感染症対策に配慮しながら地域交流を実現し、地域の教育力を生かし、交流等を通して生徒の自己肯定感の高揚を図る。 ②感染症対策に配慮しながら広報活動を行い、本校の教育活動を積極的に発信するとともに、地域の方も安心して来校できる環境整備をすすめる。
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三ツ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故･不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①清掃活動や教室･等の整理の徹底を図るとともに、防災訓練を実効性あるものとし、防災備品の管理体制を整備する。 ②分教室受入れ体制を整備し、インクルーシブ教育体制を構築する。 ③私費会計処理や行政文書の適切な管理等における事故防止を徹底する。 ④PTA 活動等の週休日の勤務について精査するとともに、業務運営について見直しをすすめ、休暇取得率の向上につなげる。	①全職員による協力体制により、清掃活動や校内各所の整備を徹底し、防災備品の管理を徹底する。 ②三ツ境養護学校との連携を密にし、双方にとって最適な教育環境を整備する。 ③会計業務における業務アシスタントの活用や、その他の業務における職員の連携により事故防止体制を構築する。 ④PTA との連絡体制を整備して役員会等の回数を精査するとともに、業務メールや ICT を活用した業務運営をすすめる。	①清掃状況、教室内整備の状況及び防災備品の管理状況についての“見える化”を整備できたか。 ②円滑な受入れを実現できたか。また、インクルーシブ教育体制の基礎を構築できたか。 ③適正な会計処理等、事故を防止する職場づくりをすすめることができたか。 ④PTA との連絡体制の整備や、業務運営における ICT の活用を通して、休暇取得率を向上させることができたか。	①感染症防止のため日々の消毒作業を徹底するだけでなく、換気やリモート授業実施などのための環境整備を行った。 ②移設予定が令和５年度に変更となったが、受入れ態勢の整備を行った。 ③会計書類の整備や保管を徹底し、スムーズな会計処理を行うなど徹底した事故防止に努めた。 ④PTA との連絡体制の整備や業務用メールの活用により、勤務時間外の業務を減少させることができた。	①今後も継続して校内の衛生管理体制を整備し、徹底した感染症防止策をとる。 ②来年度も三ツ境養護学校と密な連携をとり受入態勢を整備するとともに、インクルーシブ教育の基礎を確立する。 ③継続して適切な会計処理等を心掛け、徹底した事故防止に努める。 ④業務メールやリモートを活用して勤務時間外の業務を削減し、働き方改革をすすめる。	①衛生管理体制を徹底できたことは評価できるが、今後も継続して衛生管理体制の整備に努めるとともに、生徒への衛生教育も徹底してほしい。 ②インクルーシブ教育の充実に期待する。また、地域の受け皿としての役割を担ってほしい。 ③事故･不祥事防止の徹底に向け、取り組んでいることは評価できる。今後も事故･不祥事の徹底防止を継続してほしい。 ④ICT の活用等により業務の効率化を図り、働き方改革に結びつけてほしい。	①感染症対策を踏まえた学校の衛生管理体制を整備するとともに、防災体制においても感染症対策の視点も踏まえた整備を行う必要がある。 ②今年度の整備をもとに今後の受入れ体制を三ツ境養護学校と連携して整備するとともに、インクルーシブ教育の基礎を確立する必要がある。 ③会計処理等、業務における事故･不祥事防止を徹底するための研修を継続的に実施し、職員の当事者意識を高める必要がある。 ④休暇取得率および勤務時間の短縮を図ることはできたが、感染症対策の視点も踏まえた業務体制を構築する必要がある。	①衛生管理体制のさらなる整備をすすめるとともに、防災体制にも感染症対策の視点を踏まえた改善を図る。 ②三ツ境養護学校との連携により受入れ体制の整備をすすめるとともに、インクルーシブ教育体制の基礎を確立する。 ③事故･不祥事の徹底防止のために、全職員による協力体制をすすめ、当事者意識をもって事故･不祥事防止に取り組む。 ④業務における ICT の活用をすすめ、感染症対策及び働き方改革の視点も踏まえた業務改善を図る、